令和８年度　第２回　学校運営協議会　議事録

令和８年９月24日（木）15:30～16:30
本校　図書館

〇会長挨拶
・青翔高校は確実にいい方に変わってきている。ｅスポーツ学科、海洋教育、玄海まるっと委員会など、地域と触れ合いながら、生徒が考えながら活動するところが魅力。
・一人一人の顔が見える、先生と生徒、地域と学校の距離が近いところが青翔の魅力・強みであるので、これからも大切にしてほしい、また協力したい。
・学校と地域をつなぐ取り組みを今後も期待している。
・明日、玄海みらい学園でも大きな発表会を予定している。対外的な発信は重要だと思う。

〇校長挨拶
・前期期末試験、前期終業式＝１０/２。前後期制。
・生徒寮の工事が進み・２月末完成の予定で、順調に進んでいる。
・遠方からの生徒も学校になじみつつも、課題も見え始めている。
・韓国文化系列、みらい学園で韓国語の先生、棚田の石積み甲子園など、機会をいただいている。
・来年度、通級による指導が動き出し、挑戦すると課題が見えてくるが、方向性は間違ってはいないと感じている。

〇グループワーク：学校の魅力づくりについて
　※後述

〇諸連絡
・魅力化評価システムへの入力を依頼
・コミュニティスクール説明会の案内
・次回、令和９年２月17日（水）に予定

熟議：各分掌における KPT 法による振り返り

各分掌において、学校評価計画に基づいて、今年度前期の取組を KPT 法（Keep：継続すること、Problem：課題、Try：今後取り組むこと）により振り返り、成果と課題を整理するとともに、後期および次年度に向けた取組の方向性を検討した。

ア　教務部

K（継続すること・成果）

- 「青翔タイム」の実施により、1日の始まりに落ち着いた学習環境を整えることができている。

P（課題）

- ICT の利活用や生成 AI の活用に関する指導について、教科間で取組状況に差が見られる。
- 一斉授業において、学習内容の理解や定着が十分でない生徒に対する個別の支援が十分に行えていない。
- 放課後の補習や質問等の機会を設けているものの、活用する生徒が少ない。
- 生徒が「学ぶことの楽しさ」や「分かること・できることの喜び」を十分に実感できていない可能性がある。

T（今後の取組）

- 学力向上に向け、必要な教員定数の確保に努め、少人数授業やティーム・ティーチング（TT）等、多様な指導形態を取り入れる。
- ICT を活用した調べ学習や課題解決型の学習、グループワーク、ペア学習等を充実させ、生徒が主体的に学び、学ぶことの楽しさや達成感を実感できる授業づくりを進める。
- 講義形式の授業と実技・体験的な学習を適切に組み合わせ、教科の特性に応じた効果的な授業を実践する。
- 2・3年次の探究学習については、教科の枠にとらわれず、進路・キャリア形成を軸とした探究活動として内容の充実を図る。

イ　生徒指導部

K（継続すること・成果）

- いじめや体罰等に関するアンケートを実施し、生徒の状況把握に努めている。
- 気になる生徒について、スクールカウンセラーにつなぐなど、専門的な支援を受ける体制を整えている。
- 特定の教員だけでなく、職員全体で生徒に関わる意識が定着している。
- 生徒にとって話しやすい教員が多く、相談しやすい環境づくりにつながっている。

P（課題）

- スクールカウンセラーの利用方法や相談内容等について、保護者にとって分かりやすい情報提供が十分ではない。
- 生徒と教員との距離が近いことが本校の良さである一方、場面によっては適切なマナーや礼儀を意識した関わりが必要となる。
- 生徒指導上の課題を抱える生徒への対応に多くの時間と労力を要しており、学習や学校生活に主体的に取り組んでいる生徒の資質・能力をさらに伸ばすための指導に、十分な時間を確保できていない状況が見られる。生徒一人ひとりの状況に応じた支援と、全ての生徒の成長を促す指導とのバランスを図る必要がある。

T（今後の取組）

- スクールカウンセラーの利用に関する情報を、「はなまる連絡帳」等を活用して定期的に保護者へ周知し、相談しやすい環境づくりを進める。
- 生徒・保護者を対象とした講演会等を実施し、家庭と学校が連携して生徒の成長を支える機会を設ける。
- 生徒指導上の課題への対応において、可能な限り授業への影響を抑え、学習機会を保障する。
- 生徒の自主性を尊重するとともに、家庭との連携を大切にしながら、本校の実情に応じた校則・ルールの在り方を検討する。
- 生徒との適切な距離感を意識し、親しみやすさと社会生活に必要な規範意識の育成を両立させる。

ウ　保健部

K（継続すること・成果）

- 全校集会等において健康管理や生活習慣についての啓発を行い、生徒への意識付けを図っている。

P（課題）

- 健康診断後の受診率が十分に向上していない。
- 生徒自身の健康や生活習慣に対する関心が十分に高まっていない。

T（今後の取組）

- 健康診断後の未受診者に対して個別に受診を勧めるとともに、受診に至らない理由を把握し、必要な支援につなげる。
- 知識の伝達だけではなく、実際の体験を通して健康について考える機会を設ける。
- 朝食の大切さを実感できる取組として、年1回程度、全校で朝食をとる機会を設けることを検討する。その際、地域おこし協力隊や地域の人材等と連携し、おにぎりや味噌汁等を準備するなど、地域との交流も含めた取組を検討する。

エ　働き方改革

K（継続すること・成果）

- 今年度から授業時間を 45 分としたことにより、職員に時間的なゆとりが生まれた。その時間を放課後の補習、検定、学び直し、部活動等に活用することができた。

P（課題）

- 教員の欠員が3名（情報・生物・数学）あり、教科の専門性を生かした教育活動の実施に課題がある。
- 土日を含む部活動の活動時間について、適切な活動時間や運営方法を検討する必要がある。特に、eスポーツ部については活動形態を踏まえたルールづくりが必要である。

T（今後の取組）

- 教科の専門性や学校の教育活動を踏まえ、必要な人材の確保に努める。
- 教員の人員確保に向けて、早い段階から関係機関等への働きかけを行う。
- 部活動の活動時間や活動方法について、学校としてのルールを明確にする。
- 生徒の自主性を尊重しながら、生徒自身が活動の在り方を考え、ルールづくりに参画できる仕組みを整える。

オ　進路指導部

K（継続すること・成果）

- 1・2年次から継続的に進路意識を育ててきたことにより、早い段階から受験先を決定する生徒が増えた。
- 進路選択において、これまで以上に新たな可能性に挑戦する生徒が見られた。
- 産業社会と人間における自己分析、系列での学び、インターンシップ、各学年での進路ガイダンス等を通して、生徒の進路意識の向上を図ることができた。
- 校内外の進路ガイダンスへの参加を促し、生徒が進路について具体的に考える機会を確保した。
- eスポーツ学科の生徒についても、進路に対する一定の意識が形成されてきている。

P（課題）

- 基礎学力の不足が、就職試験等における不合格につながるケースが見られた。
- 「青翔タイム」等を活用して復習に取り組んでいるものの、一般常識等の基礎的な知識・技能の定着が十分ではない。
- 学習に対する目的意識や継続的に取り組む姿勢の育成に課題がある。
- 目の前の進路選択だけではなく、生涯を通じたキャリア形成を見据えたキャリア教育の在り方について、さらに検討する必要がある。

T（今後の取組）

- 進学・就職等の進路先に関する情報収集を進め、生徒が多様な選択肢を知る機会を充実させる。
- 生徒自身が将来の生き方や働き方について主体的に考えられるよう、継続的なキャリア教育を実施する。
- 保護者に対しても進学や就職等に関する情報を提供し、家庭と学校が連携して進路について考える機会を充実させる。
- 生徒自身がこれまで経験したことのない分野や活動に参加する機会を設け、視野を広げる。
- 職業や学問分野の違いについて理解を深める機会を設ける。例えば、「作業療法・理学療法」「経営・経済」等、名称や内容が似ている分野の違いを比較しながら学ぶ機会を、1 月に実施する。

カ1　学校魅力化

K（継続すること・成果）

- eスポーツ学科が本校の特色の一つとして定着し、新たな学校の柱となりつつある。
- 生徒が主体となって運営したオープンスクールを通して、生徒自身が学校の魅力を発信する成功体験を得ることができた。
- 総合学科ならではの多様な学びや、生徒がのびのびと学校生活を送ることができる環境が、本校の魅力となっている。
- 中学校段階で学校生活に困難を抱えていた生徒にとっても、本校が新たなスタートを切る場となっている。

P（課題）

- eスポーツ学科について、「ゲームだけをしている」という誤解を招くことがあり、学科で身に付く力や学びの内容を十分に発信できていない。
- 総合学科における多様な学びや系列の特色について、外部に分かりやすく伝えることに課題がある。
- 生徒が自らの言葉で学校の魅力を発信する機会が十分ではない。
- 本校の魅力や教育活動について、生徒自身が肯定的に捉え、自信をもって発信できる環境づくりが必要である。
- 広報活動が特定の職員に依存する傾向があり、組織的・継続的な広報体制の構築が必要である。

T（今後の取組）

- 各学科・系列でどのような学びができるのかを具体的に整理し、分かりやすく発信する。
- 個々の生徒の活動だけでなく、学校全体で取り組む教育活動や、生徒同士が協働する姿を発信し、本校の「学校らしさ」を伝える。
- 生徒が主体となって学校行事や広報活動等を運営する機会を増やす。
- 生徒が自分の言葉で学校の魅力や学びについて語ることができるよう、発信する機会を充実させる。
- 「まるっと委員会」との連携を強化し、生徒や地域と協働した情報発信を進める。
- SNS や Instagram 等を効果的に活用し、学校の魅力が伝わる発信方法を工夫する。
- 地域との連携を深め、地域と学校とのつながりが伝わる情報発信を行う。
- 「まるっと委員会」の Instagram アカウント等とも連携し、情報発信の幅を広げる。
- 学校内で写真・動画等の広報素材を積極的に共有し、職員全体で継続的に広報活動に取り組める体制を整える。

カ2　全国募集

K（継続すること・成果）

- 町内の空き家を活用したシェアハウスの取組を継続し、域外からの生徒を受け入れる環境の整備・充実を進めることができた。
- 県外から8名、県内の遠隔地域から2名の生徒を受け入れるなど、域外からの入学者が増加した。

P（課題）

- 活用可能な空き家がある一方、個人情報保護等の関係から所有者の特定や連絡先の把握が難しく、空き家の開拓に課題がある。
- シェアハウスの生活環境や生活上のルールについて、引き続き整備・改善が必要である。
- ローカル5G事業の撤退について、学校への直接的な影響はほぼないものの、全国募集における学校や地域のイメージ形成に影響を与える可能性がある。
- シェアハウスにおける共同生活の在り方や生活ルールの遵守等について、継続的な支援・管理が必要である。

T（今後の取組）

- 全国募集の受入体制を充実させるため、シェアハウスを新たに2件程度開拓する。遠隔地も含めて候補物件の情報収集を進め、条件に応じた受入先の確保を図る。
- 入学希望者や保護者からの相談・見学希望に対して、個別の状況に応じた丁寧な対応を行う。
- 個別相談・見学等の対応件数が増加していることを踏まえ、町や関係機関等と連携しながら、相談から見学、入学、入居までの対応を体系化する。
- SNS 等を活用した情報発信を強化し、ゲーム系 YouTuber 等との連携も含め、本校の特色や地域での生活の魅力を効果的に発信する。
- シェアハウスでの生活について、生徒自身が主体的に考え、安心・安全な共同生活を送ることができるよう、生活ルールや支援体制の整備を進める。

８　全体総括

今回の KPT による振り返りを通して、各分掌における取組の成果と課題を共有し、後期および次年度に向けた改善の方向性を整理することができた。

今年度は、「青翔タイム」や 45 分授業の実施、早期からのキャリア教育、生徒主体の学校行事、eスポーツ学科をはじめとする本校の特色ある教育活動、全国募集における受入体制の整備など、学校の教育活動を充実させるための取組を進めることができた。また、生徒と教職員との距離の近さや、教職員全体で生徒を支える体制も本校の強みとして確認することができた。

一方で、基礎学力の定着、学習への意欲や主体性の育成、生徒指導と学習指導の両立、教職員の人員確保、ICT の活用、健康管理、広報活動の組織化など、継続して改善に取り組むべき課題も明らかになった。

後期および次年度は、課題を抱える生徒への支援を充実させるとともに、学習や学校生活に主体的に取り組む生徒の力をさらに伸ばすことにも意識を向け、すべての生徒の成長を支える教育活動を進めていく。また、生徒の主体性を生かしながら、地域や家庭、関係機関との連携を一層深め、本校の教育活動や魅力を、生徒自身の言葉で地域内外に発信できる学校づくりを進めていく。